

山陽小野田市年齢別人口（2012～2022）

	年少人口 0～14歳	割合	生産年齢人口 15～64歳	割合	老年人口 65歳～	割合	人口計	対昨年比 人口減少
H24年（2012）12月末	8,515	13.00%	38,510	59.00%	18,450	28.00%	65,475	
H25年（2013）12月末	8,391	12.92%	37,603	57.89%	18,965	29.19%	64,959	▲ 516
H26年（2014）12月末	8,291	12.83%	36,627	56.70%	19,680	30.47%	64,598	▲ 361
H27年（2015）12月末	8,185	12.71%	36,058	56.03%	20,123	31.26%	64,366	▲ 232
H28年（2016）12月末	8,090	12.63%	35,409	55.32%	20,521	32.05%	64,020	▲ 346
H29年（2017）12月末	7,978	12.53%	34,885	54.85%	20,760	32.62%	63,623	▲ 397
H30年（2018）12月末	7,857	12.43%	34,358	54.40%	20,953	33.17%	63,168	▲ 455
R元年（2019）12月末	7,570	12.13%	33,850	54.26%	20,968	33.61%	62,388	▲ 780
R2年（2020）12月末	7,351	11.94%	33,143	53.83%	21,071	34.23%	61,565	▲ 823
R3年（2021）12月末	7,134	11.72%	32,698	53.73%	21,024	34.55%	60,856	▲ 709
R4年（2022）12月末	6,921	11.49%	32,392	53.80%	20,896	34.71%	60,209	▲ 647
R4年とH24年比較	▲ 1,594		▲ 6,118		2,446		▲ 5,266	

(10年間)

資料

年齢別人口集計表

■将来都市像の実現のための「協創によるまちづくり」

将来にわたって持続可能な地域社会を築くためには、市民、各種団体、学校や大学、企業、市議会、市などが、協力してアイデアを出しながらまちづくりを考え、協力してまちをつくる「協創によるまちづくり」が必要です。そして、そのためには、様々な立場や視点を持つ人がお互いを認め合う「多様性」が不可欠です。

まちづくりの基本理念である「住みよい暮らしの創造」は、「協創によるまちづくり」を踏まえたものであり、将来都市像「活力と笑顔あふれるまち」の実現に向けたまちづくりにおいて、「協創によるまちづくり」は、常に意識すべき根幹となる考え方とします。

